

1 単元名 「磯の博士になろうⅢ」

2 単元の目標

- 中島の海や他地域の海の環境問題について調べて分かったことをまとめることができる。
(知識及び技能)
- 海の環境を守るために自分たちにできることには様々な方法があることに気付き、一つ取り上げ、その方法を詳しくポスター等にまとめ、他者に発信することができる。
(思考力・判断力・表現力等)
- 中島の海と他地域の海の環境問題を比較することで、中島の海が世界の海とつながっていることに気付き、中島の海に加え、世界の海を守るために自分にできることを考え実践することができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、1学期に海岸に行き、どんな海の生き物がいるか調査を行った。これまで海の生き物を見たことはあるが、詳しく調べることは初めてであったため、活動を楽しむ児童が多かった。児童は活動後、中島以外の海岸の様子や他地域の海の様子について興味を示した。そして、他の海の生き物について、図書室の本やネット上の情報等から様々な地域の海岸の様子、生き物の様子を調べた。また、海の調査の時に海岸に打ち上げられたゴミにも関心をもち、生き物と環境問題との関連について調べる児童も現れた。

そこで、2学期の9月に海の生き物が生息する環境を破壊し得るマイクロプラスチックについて調べるために観光地にもなっている姫ヶ浜を訪れ、どういったプラスチックごみがあるか調査した。姫ヶ浜で目にしたたくさんのプラスチックごみのカラフルさから、それらを使ってアート作品をつくろうとした。そこで、松山市のSDGs推進コンダクター(大学生)の協力を得て、漂着した物を拾う活動を行った。10月には、拾った漂着物を使って、モビールとのれんを作った。漂着物アートの講師を招き、手順やコツを教えてもらいながら作品づくりを行った。漂着物アートを体験することで、児童は大切な海を守るために何ができるのか考えるきっかけをもつことができた。中島を囲む海を守るために自分たちにできることを少しずつ考えることができるようになってきており、主体的に学ぼうとする気持ちが高まってきている。しかし、中島の海が他の地域や世界の海とつながっていることを感じたり、広い視点で自分にできることを考えたりすることはできていない。

(2) 教材観

松山市にある中島は、四方を海で囲まれたおだやかで自然豊かな離島である。産業や観光面において海との関わりが深い町である。地域には、海に近い環境で発展していたみかん産業や豊かな海を生かした養殖漁業などがある。観光面では、夏に開催されるトライアスロン中島大会や島外から多くの

観光客が訪れる姫ヶ浜海水浴場などがある。このように島で暮らしている児童にとって、海は自分たちの生活と密接に関わっているものである。

そういった背景から、本校の3・4年生の複式学級では、隔年で「磯の博士になろう」という単元がある。今年度は、1学期には「中島の海に出かけ、中島の海への愛着を深める」、2学期には「中島の海と他地域の海の問題点を比較し、これからも中島の海を守ろうという意欲を高める」、3学期には「中島の海を守るために、自分たちにできることを考える」という目標を掲げてSDGsに関わる学習をしてきた。児童は様々な知識を関連付けながら考え、「海」を軸に新たな課題を見つけながら活動しようとしてきた。3学期には、調べた内容を振り返りながら自分たちにできることを実践することで、環境問題を自分事として捉え、主体的に学びを進めていくことができるだろうと考えた。さらに、海は世界とつながっているため、身近な地域から世界規模へと学びを広げていくのに適していると考え、本単元を設定した。

(3) 指導観

指導に当たっては、単元全体を通して地域の自然や人々と触れ合う体験活動を通して進めていく。

まず、中島の海を探検したり、文献から海や生物などについて調べたりした後、海について話し合い、身近な海の良さだけでなく、問題点に気付くことができるようにする。

次に、環境問題に焦点を当て、どういった海洋ごみの問題があるのか、また、ごみ問題に対して人々はどのような活動をしているのか、などの課題について調べ学習を行うことで、児童が主体的に学びを進めていけるようにする。

そして、環境問題やSDGsに関わる専門家の方々から直接お話を聞き、自分で調べたことに加えてさらに広い視点で海の問題について考えることができるようにする。

最後には、海を守るために何ができるのか考え、海を守る方法として出てきた多くのアイデアの中から学級の全員でいくつか実践する。その結果、中島の海が他の地域や世界の海とつながっていることを感じたり、広い視点で自分にできることを考えたりすることができるようにしたい。

児童から出てくるアイデアの例として「スポ GOMI WORLD CUP」などの活動を予想している。これは、ごみ拾いに「スポーツ」のエッセンスを加え、今までの社会奉仕活動を「競技」へと変換させた日本発祥の新しいスポーツであり、世界に広がった活動である。この例のように、身近な地域で活動することが世界の課題解決につながる可能性があることを実感できればよいと考えている。

(4) ESD との関連

本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

多様性…海を守るための方法には様々な方法があることに気づき、自分にとってよりよい方法を選択して、実践していく。

相互性…自分たちの住んでいる地域を囲む海と世界の海はつながっていることに気付く。

有限性…資源は有限であるが、ごみ処理も無限にできるわけではないことを知り、資源を大切にしたり、ごみを減らしたりしようとする。

公平性…今さえよければいい、自分さえよければいいという考えでは持続可能な社会をつくることができないと気づき、小さなことでも自分が行動しようとする。

責任性…持続可能な社会を創るために、人任せにするのではなく、まず、自分の行動を見直す。

本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ・未来像を予測して計画を立てる力
自分たちの学習や行動を今後につなげるために、どのような実践をしていくべきか考える。
- ・多角的・総合的に考える力
海の環境を守るためことで、何を、誰を救うことができるのかを考え、目的意識をもった上で、海を守るためにできることを様々な視点から考え、実践する。
- ・コミュニケーションを行う力
これからの行動について、意見交流を通して自分の考えを深めたり、考えを広げたりする。
- ・他者と協力する態度
友達と協力することでできることを見つけ、みんなでよりよい実践を考え、活動を広げる。
- ・つながりを尊重する態度
探究的な学習を通して他者とつながり、相手を意識しながら活動する。自分と地域、自分と世界とのつながりに気付き、自分にできることを考え、実践しようとする。
- ・進んで参加する態度
自分が地域の一員であること、世界市民であることを自覚し、海を守る活動を積極的に行う。

本学習で変容を促す ESD の価値観

- ・世代間の公正
よりよい行動によって、未来につながる環境づくりが大切である。
- ・自然環境、生態系の保全を重視する。(生物多様性の重視)
普段の生活で便利なものを使うと快適な生活ができるが、それによってゴミが大量に発生することを理解し、普段の生活を見直したり、既に存在するゴミを減らしていくためにできることを考えたりすることで、環境に負荷を欠けないよう行動していくことが大切である。

達成が期待される SDGs

- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう

4 単元の評価規準

(ア)知識・技能	(イ)思考・判断・表現	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>① 中島の海の生き物について調べ、生息する環境によって個体差があることが分かっている。</p> <p>② 現在の海岸や海におけるゴミ問題について理解している。</p>	<p>① 複数の事柄や資料などの情報を整理し、友だちと協働して課題を解決する方法を考えている。</p> <p>② 他者に情報を発信するための手立てを具体的に考えている。</p>	<p>① 中島の海と他地域の海の問題を比較し、中島の海が世界の海とつながっていることを感じながら、自分ができることを考えようとしている。</p> <p>② 世界のために、これからの社会のために実践しようとしている。</p>

5 単元の指導計画（全28時間）

主な学習活動	学習への支援	評価
<p>1 中島の海に探検に行き、海の生き物について調査する。</p> <p>2 図書室の本やネット上の情報等から様々な地域の海岸の様子、生き物の様子を調べる。</p>	<p>○海の生き物や環境の変化を探るために、どのような手順で、どんな情報を集めたらよいかといった計画をつくるよう指導する。</p>	<p>ア① (知・技)</p>
<p>3 中島の海の生き物調査について振り返り、自分の思いや友達の考えを伝え合い、中島の海についての自分たちの思いを話し合う。</p> <p>4 海の生き物が生息する環境を破壊し得るマイクロプラスチックの問題等、環境問題について調べる。</p> <p>5 姫ヶ浜にどういったプラスチックごみがあるかを調査する。</p> <p>6 身近なゴミが川を伝って海岸に漂着し、生物や景観に悪影響を及ぼしていることへの理解を深めるために始まった漂着物アートの活動を行う。</p>	<p>○児童が主体的に学べるよう、児童が出した意見から今後の活動内容を考えるようにする。</p> <p>○SDGs 推進コンダクターや講師等の専門家から話を聞くことで、海を守ることの大切さに気付くことができるようにする。</p>	<p>ア② (知・技) イ① (思判表)</p>
<p>7 海を守るために何ができるのか考え、ポスター、パンフレット、新聞などを用いて分かりやすく友達に伝える。</p> <p>8 学級で話し合って決めた活動を実践する。</p> <p>9 実践したことを SDGs の専門家の方に報告し、評価をもらう中で、身近な海が世界とつながっていることに気付く。</p>	<p>○児童が実践した内容について専門家から評価をもらうことで、普段の生活での今後の実践意欲を高める。</p>	<p>ウ① (主体的) イ② (思判表) ウ② (主体的)</p>